エゾ鹿の皮を、価値ある革に。クラファン累計2億円を突破｜北海道のエゾ鹿革ブランドLEATHERECTIONとROKUBO

野生鳥獣の利用金額に占める皮革は、わずか0.5%。狩猟から一貫管理する鹿革製品に延べ4,000人超が応援購入、4人に1人が2つ以上を購入



左：鞣しを終えて乾燥を待つエゾ鹿革／右：北海道天然エゾ鹿革「大人のトートバッグ」

北海道天然エゾ鹿革の製品を手がけるLEATHERECTION（レザレクション、運営：wacca create株式会社、本社：北海道北見市、代表取締役：林 徹）が、北海道のアウトドアブランドROKUBO（ロクボー）との共同展開を含めて実施してきた鹿革製品のクラウドファンディングで、累計応援購入額が2億円を超えた。2020年6月の最初のプロジェクトから6年5か月、MakuakeとCAMPFIREで実施した24プロジェクトの合計は、2026年11月17日時点で2億993万円、応援購入は延べ4,019件にのぼる。現在もMakuakeで、「大人のトートバッグ」と「3WAYコンパクトショルダー」の2製品を展開している。

国内で捕獲される鹿は年間約74万頭。その皮は軽く丈夫な革になる素材だが、多くは活用されないままになっている。両ブランドは、ハンターや職人と連携して狩猟の段階から皮を管理し、鹿革を価値ある素材として製品にする取り組みを続けている。

・「大人のトートバッグ」 https://www.makuake.com/project/ezoshika-tote-bag/
・「3WAYコンパクトショルダー」 https://www.makuake.com/project/baginbag/

獲られた鹿の皮は、ほとんど使われていない

森林や農作物を守るため、全国で捕獲されるニホンジカは年間約74万頭にのぼる（環境省、令和6年度速報値）。被害を防ぐための捕獲は、1990年度と比べて約57倍に増えた。北海道でも、年間約15.8万頭のエゾシカが捕獲されている（北海道、令和6年度）。

一方で、獲られた鹿のうち食肉などに利用されるのは2割に届かない。皮はさらに少なく、食肉処理施設が野生鳥獣を処理して得た金額のうち、皮革は0.5%にとどまる（農林水産省「令和7年度野生鳥獣資源利用実態調査結果」、2026年9月公表）。全体の金額が前年度から約19%増えた一方で、皮革は約1割減った。施設に運ばれない鹿も多いため、革になる割合は実際にはさらに小さい。

捕獲は増え、肉の利用も少しずつ広がっている。その中で、皮だけが取り残されている。

エゾ鹿革は、もともと価値の高い素材

鹿革は軽く、柔らかく、丈夫で、水に濡れても自然乾燥で風合いが戻る。古くから武具や革小物に使われてきた素材だ。

それでも活用が進まなかったのは、素材の質の問題ではない。野生の鹿は一頭ごとに状態が違い、狩猟後の処理が遅れると皮の質が落ちる。山から革になるまでをつなげる体制は、国内でもごくわずかしかない。そのため、良い状態の皮を安定して集めることが難しかった。

価値を引き出すのは、管理と連携

LEATHERECTIONとROKUBOは、ハンター、食肉処理施設、タンナー、縫製職人と連携し、狩猟から製品までを国内で一貫して管理している。

革の質は、肉と同じように鮮度で決まる。両ブランドが使うのは、狩猟から2時間以内に処理した原皮だ。皮はハンターから直接譲り受け、原皮の状態を管理したうえで鞣しに回す。入口の管理を徹底することで、「傷が多く扱いにくい」とされてきた鹿革を、安定した品質の革に仕上げている。

製品はバッグを中心に、財布、マフラー、ネクタイまで広げてきた。いずれも修理に対応し、長く使い続けられることを前提にしている。



エゾシカの狩猟（北海道・北見周辺）



国内のタンナーでの鞣し工程

数字で見るこれまでの歩み

- 累計応援購入額：2億993万円（2026年11月17日時点）
- プロジェクト数：24（Makuake 21、CAMPFIRE 3）
- 応援購入件数：延べ4,019件
- 最初のプロジェクト：2020年6月（鹿革のミニウォレットとトラベルトレイ）
- 最も支持された製品：ヘルメットバッグ 2,317万円（2026年1〜4月）

累計額は2026年10月、「大人のトートバッグ」の公開直後に2億円を超えた。

ただし、2億円分の製品を届けても、活用できた皮は捕獲全体から見ればごく一部にすぎない。0.5%という数字は、まだほとんど動いていない。

購入者の4人に1人が、2つ以上を購入

> Makuakeの購入履歴を自社で集計すると、購入者の約4人に1人が2つ以上のプロジェクトで購入している。現在実施中の「3WAYコンパクトショルダー」では、購入者の約7割が過去のプロジェクトでも購入した人だ（2026年11月17日時点）。

一度使った人が、次の製品も選んでいる。素材の良さは、使った人の行動に表れている。

収益の一部を、鹿が暮らす森へ

鹿が増えすぎた森では、下草や樹皮が食べ尽くされ、新しい木が育たなくなる。鹿の問題と森の問題はつながっている。

LEATHERECTIONはこれまで、売上の一部を北見市（農林水産部 農林整備課）に寄附し、森林整備の推進に役立ててきた。現在実施中の2つのプロジェクトでも、収益の一部を同じく北見市に寄附する。

現在実施中のプロジェクト

- 北海道天然エゾ鹿革「大人のトートバッグ」：2026年10月17日〜12月27日 22時、応援購入額859万円（92件、11月17日時点）
  https://www.makuake.com/project/ezoshika-tote-bag/
- 北海道天然エゾ鹿革「3WAYコンパクトショルダー」：2026年11月11日〜2027年1月24日 22時、応援購入額670万円（123件、11月17日時点）
  https://www.makuake.com/project/baginbag/

3WAYコンパクトショルダーは、公開翌日の11月12日にMakuake「今日のランキング」で総合1位となった。



北海道天然エゾ鹿革「大人のトートバッグ」


北海道天然エゾ鹿革「3WAYコンパクトショルダー」

代表コメント（LEATHERECTION 林 徹）

> 「2億円という数字は、私たちの実績というより、鹿革を選んでくださった方の数だと受け止めています。

> 鹿革は、もともととても良い素材です。ただ、良い革は一社ではつくれません。山で鹿を獲る人、処理する人、鞣す人、縫う人がつながって、はじめて素材の価値が形になります。
>
> 『もったいないから』ではなく『良い素材だから』選んでもらえるものを、これからも一つずつ作っていきます。鹿革を使う人が増えることが、活かされる皮を増やす一番の近道だと考えています。」

会社概要

LEATHERECTION（レザレクション）

北海道で捕獲されるエゾシカの皮を、狩猟から鞣し・縫製まで一貫管理で製品化する鹿革ブランド。代表の林が営むジビエ加工・販売のporo waccaと連携し、ひとつの命を丸ごと活用するものづくりを行う。

- 会社名：wacca create株式会社
- 代表者：代表取締役 林 徹
- 本社：〒090-0052 北海道北見市北進町1-11-10
- 東京事務所：〒193-0834 東京都八王子市東浅川町914-1 ビル石峯302
- 事業内容：エゾ鹿革製品の企画・製造・販売（LEATHERECTION）、アウトドアブランドROKUBO製品の取り扱い

ROKUBO（ロクボー）

2021年設立、北海道北見市を拠点とするアウトドアブランド。代表は野田坂 綱。「鹿の命を無駄にせず活かす」を掲げ、鹿革・鹿角・ジビエ食品を展開する。

本リリースに関するお問い合わせ

wacca create株式会社　担当：林 徹

TEL：0157-57-4884